

こくりにゅうだよ



大阪府立桜塚高等学校2年 増元 涼香

「本物のひまわりを見に行きたいです。」



8月のイベント情報

※いずれも会場はとよなか国際交流センターです。



おまつり地球一周クラブ ドキドキ考古学! 8月18日(土)

10:00~12:00

弥生時代と同じ石材を使った石庖丁づくり、マチカネワニなどの化石や古墳についての話。

定員:15人(先着順・要申込)

対象:小・中学生

参加費:300円

世界のお化け屋敷 8月19日(日)

13:30~16:30(最終受付15:30)

お化け屋敷の体験。

参加費:100円(お菓子付き)

申込不要

(未就学児は保護者同伴)

第4回 とよなか 国際交流フェスタ 9月8日(土)

10:00~16:00

市民グループによるバザーとステージ発表、登録グループによる活動発表、エスニック料理などの販売ほか。

入場無料(一部有料)

【7/13（金） 市民公開講座】

多文化共生入門～外国人の現状と協会の取り組み～

7月13日（金）の13時30分から15時までC Cスペースで行いました。サブタイトルは「外国人の現状と、とよなか国際交流協会の取り組みを知る」。

日本に暮らす外国人が増加していて、地域や産業によっては依存と呼べるほど外国人が増えてきていること。その一方で法・ことば・心の壁などが依然として存在していて、受入環境が整っているとは言えないこと。その中で、とよなかの取組紹介として「多言語相談」「にほんご交流活動」「子どもの居場所や学習支援」などを取り上げ、より具体的に課題や状況について説明しました。

参加者からは「これだけ外国人に支えられて今の生活をしているにも関わらず、敵対するような感じ方をしている人が今の日本ではないか」「外国人と日本人が接点を持てるようになることをやってみたい」「いろいろな人に知ってもらうことが大事」といった声がありました。

多文化共生に向けて、だれにでもできることがある。そのために、一人でも多くの人に知ってもらう取組を今後も続けていきたいと思います。（事務局長・山野上隆史）



あなたもトライ！

○×クイズ

公開講座では、右のような○×クイズも盛り込みながら、外国人の現状について考えていきました。

Q. 日本の住民のうち、100人に1人が外国人だ。○か×か。

A. × 2018年6月末時点で256万人、約50人に1人です。現在すでに急増していますが、政府では来年4月から新たな在留資格を設け、外国人労働者の受入れ拡大を行う予定です。数十万人規模ともいわれていますが、受け入れ環境の整備・人権保障などが欠かせません。

Q. 今、日本の結婚の50組に1組は国際結婚だ。○か×か。

A. × ピーク時より少し減りましたが、日本の結婚の約80組に1組が国際結婚です。また、日本で生まれる子どもの30人に1人は両親とも、あるいは両親のいずれかが外国人です。単純計算すると、学校のクラスに1人は外国にルーツを持つ子どもがいることになります。

「焼肉ドラゴン」（鄭義信著・角川文庫）

原作の演劇が上映された時から、その評判の良さに密かに気になっていた作品だ。

元々は第二次世界大戦後、祖国に帰れず日本で暮らしていくことを決めた 龍吉と、一家が営む焼肉屋を描いた作品である。こう書くとありふれた物語だが、日本社会の矛盾が丁寧かつ徹底的に「ふつうの暮らし」のなかに組み込まれている。威圧的な役所の対応や学校での凄惨ないじめによって自身の存在を他者に翻弄され、振る舞いや選択を強いられる。それも「運命だ」と受け入れ続ける龍吉の姿に、私は現在フィリピンの実家で暮らす自分の母を重ねていた。龍吉一家も私の母も、外国人として日本で暮らす覚悟の強さと立場の弱さが見え隠れする生活だった。



作中に、龍吉が「たとえ昨日がどんな日でも、明日を信じられる」と明るく話す場面がある。在日コリアンや移民のストーリーは、時に私たちの想像を絶する「体験」として語られることも少なくないが、彼らにとって体験ではなくそれこそが「ふつうの暮らし」だったはずだ。日本における「ふつう」を維持するために、迫られた暮らしを「ふつうの暮らし」として彼らは生き抜くしかなかった、いや、いまでも生き抜いているのだと強く思い知らされる。（協会職員・三木幸美）

第10回

センターで活動している人を紹介します☆

「何しにだろう？」

このコラムに登場された方は、それぞれ目的をお持ちですが、私の場合はちょっと違う。ご縁があって来ることになったものの、特に目的は無く、来てみたら私にできることがあった、という感じでした。

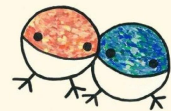
7年前に評議員に欠員ができ、後任をさがしているのだと、当時の職場の某氏に言われ、国流のことを全く知らず、しかし断る理由もなく、好奇心旺盛な性格故、引き受けたのがそもそもの始まりでした。それから早いもので7年たち、今は理事とボランティアの兼任です。

職員さんから手伝ってと声がかかると、出番とばかりに登場します。図書や民族衣装の整理、イベントの手伝い、そしてお料理教室のアシスタント等の体験させていただき、また、いろいろな方とも知り合えて、私の世界は広がりました。そんな機会を与えて下さったことに感謝しています。

気が付けば、今や国流は私の生活の大事な一部となっています。理事として運営にも関わらせていただき、その責任も感じながら、多文化共生をめざす国流の取り組みに少しでも力になれたらと思っています。



協会理事
とくひろ ひろこ
徳弘 博子さん



セミナー報告

日本の災害と防災

@C.C.スペース



7月27日（金）大阪大学大学院国際公共政策研究科グローバル・リスク・ソリューションズ・センターの塚本俊也さんをお迎えして、外国人向けの多言語防災セミナー「日本の災害と防災」を開催し、34人が参加しました。大阪府北部地震や西日本豪雨の後の開催とあって参加者の関心も高く、皆さん熱心に耳を傾けていました。

当日は地震の怖さ、発生メカニズムなどについて学ぶとともに、地震が起こる前にできること、地震が起きた時、揺れがおさまった後、避難のために家を出る時等、状況別の具体的な行動やチェックポイントについても確認しました。大阪大学で開発した多言語対応・広域災害情報システム「Cared.jp」についても紹介されました。外国人向けの様々な多言語情報提供サイトやアプリも紹介していただきました。

イベント告知

第4回 とよなか国際交流フェスタを開催します

年に1度の「とよなか国際交流フェスタ」を9月8日（土）に開催します。「世界と出会おう！ふれ合おう！味わおう！」を合言葉に、世界のお料理（ネパール、ベトナム、タイ、インドネシア、韓国、中国、アメリカなど）や飲み物、ステージ発表、子ども向けゲームコーナーや民族衣装・民族楽器の体験など、盛りだくさんの内容で皆さんのお越しをお待ちしております！今年度は、とよなか国際交流センター設立25周年の特別企画（景品付きクイズ大会）もご用意しております。9月8日は、世界を体感しに、ぜひとよなか国際交流センターへお越しください。

＜同日開催予定＞『市民活動ジャンプフェスタ』きたしん豊中広場（豊中駅前）/
『すてっぷライブラリーまつり2018』エトレ豊中5階「すてっぷ」





大阪府立池田高校美術部

——夏休みでもみんな学校に来てるんですね。夏休みも毎日部活動があるんですか？

東：8月上旬から、高校生の作品が展覧される高校展があるので、今はそれに向けての準備をしています。普段は部員は3年生が5人、2年生が4人、1年生が9人の18人で活動しています。

浜崎：出展は油絵・デザイン・立体の3種類から選べるのですが、私たちは2人ともデザインを選びました。油絵を描いているのは1年生ですね。

——すみません…非常に初歩的な質問なんですが、それぞれの違いって何ですか…？

浜崎：油絵は名前の通りで油絵の具で描くのですが、立体は高さのあるものや飛び出てるものが当てはまります。モノづくりって感じですね。デザインは基本的にどんなものでも材料にできますので、例えば東さんは発泡スチロールを使っているし、私は折り紙を使っています。

東：立体まではいきませんが、デザインの作品も多少であれば凹凸をつけられます。

——なかなか実際に作品を見ることがあまりないので、どの作品も特徴的でおしらせ表紙とは違った雰囲気が出ていますね。表紙イラストを描くときには、どんなことを意識していますか？

浜崎：基本的には2年生が持ち回りで描いていますが、その月の行事を取り込んだり、前月号の表紙イラストはチェックしていますね。できるだけ季節感のあるイラストを描きたいと思っています。

——確かに季節感ありますよね。持ってきていただく表紙のイラストを見て、職員間では毎回「めっちゃ良い！」を連発しています(笑)。ところで、お二人が美術部に入りたいと思った理由は何ですか？

東：私たちは同じ中学から進学したのですが、私は中高ともに美術部で、高校でも美術をやりたいと思っていました。

／ こくりゅう5W1H！ ／ (第1回)

こくりゅうにまつわる、「あれってなんだろう」「だれがつくってるんだろう」という様々な疑問におこたえする新コーナー(不定期掲載)です。今回は、「こくりゅうだより」の表紙を隔月で描いてくれている大阪府立池田高校美術部の皆さんに、表紙制作や日頃の活動についてインタビュー形式でお聞きました。

※今月号の「登録グループの活動紹介」はお休みします。

浜崎：私は当初美術部に入る予定にはしていなかったんですが、東さんの勧誘と(笑)、あとは校内に飾られている美術作品がすごくて、私も美術部に入ろうと思いました。

——たしかに校内に飾られている作品ってどれも力作というか、すごく丁寧に描かれたんだらうなと思うものばかりですよ。美術室までの階段を上りながら、何回か足を止めて見てしまいました。今後の美術部の予定を教えてください。

浜崎：夏には高校展、秋には文化祭、冬にもう一度展示会がある予定です。



池田高校2年生の東さん(左)と浜崎さん(右)。



上記イラストは浜崎さんより。

「猛暑が続いてますね！涼しい格好でお過ごしください！」

今回のインタビューをきっかけに、池田高校の皆さんに8/19開催の「世界のお化け屋敷」への協力もしていただけることになりました！今後どうぞよろしくお願いいたします。

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第112号(2018年8月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間:9:00~21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp

WEB:http://www.a-atoms.info/

多言語情報も
配信しています！



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

